

公益法人 第10期

2020（令和2）年度

# 事業報告書

2020年4月1日から

2021年3月31日まで

公益財団法人

ベルマーク教育助成財団

ベルマークには公益財団法人として認められた事業が2つあります。

公益事業1（助成事業）は、参加団体（学校等）がベルマークを集め、自校の設備を充実させることを財団がお手伝いします。ベルマーク運動の本体ともいえます。

公益事業2（援助事業）は、事業1にともなって財団にいただく寄付を原資に、生徒数が少なくマーク集めが困難なへき地校、災害被災校、特別支援学校等に財団が教材を寄付します。

ベルマーク財団は事業2を実施するために事業1の仕組みとともに、1960年に設立されました。

2つの公益事業と、それを安定して継続するための財団運営にわけて、2020年度に実施した事業を報告します。

## 《公益事業1》

### ● 参加団体の動き

➤ 参加団体数は26,422団体（2021年3月末）

◇ 2020年3月末比で△248校です。少子化による学校の統廃合で、微減の傾向が続いています。ただ、参加率については、団体の過半を占める小学校の参加率は71.8%、中学校は61.1%と前年と同水準でした。

〈参加団体＝学校等〉 26,422 団体

	2021年3月末	2020年3月末	増減
<b>参加団体数</b>	<b>26,422</b>	<b>26,670</b>	<b>△248</b>
幼稚園	4,759	4,832	△73
小学校	14,037	14,161	△124
中学校	6,202	6,250	△48
高等学校	1,150	1,158	△8
大学	94	96	△2
公民館	180	173	7

➤ 協賛会社数は52社です（2021年3月末）

◇ ただし、4社（岩塚製菓、ファミリーマート、クラレトレーディング、BRITA Japan）から退会の連絡があり、2021年度は48社となります。

➤ 協力会社数は14社です（2021年3月末）

◇ ただし、セイコーロック株式会社とセイコータイムシステム株式会社がセイコータイムクリエーション株式会社として合併するため、2021年度は13社となります。

➤ 参加団体が一年間で集めた点数は2億9255万点

◇ 2020年3月末比で△28.7%です。コロナ禍による休校があったことに加え、PTAの活動が十分できなかった学校が多く、財団に届くベルマー

クも大幅に減りました。

- 2020年度 292,549,186点
- 2019年度 410,275,804点
- 前年度比 △28.7%

◇ ベルマーク運動が始まった1960年からの累計集票点数は、28,901,581,937点、ベルマーク預金としては累計約289億円になりました。

➤ 参加団体のお買いものの額 3億8669万円

◇ 協賛会社から提供いただいたお金と、これまでのベルマーク預金を合わせて、参加団体がこの一年間で購入した教材費等の金額です。こちらもコロナ禍の影響を受けて前年度比84%でした。

◇ 2020年度は、空気清浄機や体温計、電子ホイッスル等をコロナ対策として購入する動きが目立ちました。ドッジボールなどのボール類や一輪車は例年通り人気でした。

- 2020年度 386,685,447円
- 2019年度 460,272,975円
- 前年度比 △16.0%

◇ 1960年からの累計は、27,909,744,855円＝約279億円になりました。

## ● ベルマーク運動説明会

➤ 2020年度は、全面的に中止いたしました。その代替りとして、財団HP上に説明会の資料や協賛会社の情報を「バーチャル説明会」としてアップしました。

## ● ホームページ・刊行物

➤ 財団ホームページ

◇ 参加団体がベルマークを送ってきた際、従来は財団が受け付けたことをはがきでお知らせしていましたが、HP上に「マーク受付」というページを設け、週別のベルマーク受付校名リストを掲示するようになりました。

◇ ベルマーク預金の残高をHPから検索できるシステム作りに着手。2020年度末に完成しました。21年度から稼働しています。

◇ 取材記事では、コロナ禍の中で直接出向けない時もオンライン会議システムを使うなどして学校現場の様子を伝えました。支援先からも多くの感謝メッセージが寄せられ、子どもの笑顔の写真つきで掲載。協賛・協力会社の話題も積極的に取り上げました。

➤ デジタル版ベルマーク新聞

◇ コロナ禍で財団事務所が閉鎖された時も休まず毎月発行しました。1カ月のニュースを見やすく編集し、まとめて掲載しています。

➤ ベルマーク活動報告書2020

◇ ベルマーク運動のしくみなども含め、これ1冊で2020年度のベルマーク財団の活動がわかるように作りました。コロナ禍への対応、そんな中でも累計点数で大台を達成した学校、財団が実施した支援の内容などを、豊富な写真とともにまとめました。

- 学校外での集票
  - 企業等のマーク集めの拡大
    - ◇ 企業や労組、自治体、個人から財団に直接送られてくる寄贈マークが増えています。2020年度の寄贈マークは3380件に上りました（前年度比110%）
    - ◇ 愛知県豊橋市、兵庫県三木市、大阪府東大阪市は、自治体としてベルマーク集めに取り組んでいます。とりわけ豊橋市は、「ベルマーク日本一！プロジェクト」と銘打ち、イベントや出版物を通して運動拡大に力を入れてくれています。ただ、2020年度はコロナ禍でいろいろなイベントが中止になってしまいました。
- ベルマーク大使
  - 2015年に7人、2018年に6組9人にご就任頂き、現在13組16人の大使がいます。地域での運動の牽引役、熱心な協賛会社の方、発信力のあるタレントさんなど多彩な顔ぶれです。2020年度はコロナ禍で活動していただけなかった面もありますが、それぞれのお仕事、生活の場で、ベルマークの普及、応援にご尽力いただいています。

## 《公益事業2》

財団がへき地校、被災校、養護学校等に援助した物品額は、2020年度は総額5230万円でした。運動が始まってからの累計額は49億7千万円になります。ベルマーク活動の原点であるへき地校の設備支援は昨年度同様100校に実施しました。災害で被災した学校への支援は、従来の東日本大震災被災校に加え、熊本豪雨の被災校にも行いました。援助先ごとの概要は以下の通りです。

- へき地学校
  - 総額 2508万円相当
  - うち設備 全国100校 2498万円 視聴覚・理科機器、体育用品など
  - うちソフト1校 10万円 理科実験教室（一輪車教室はコロナ禍のため実施できず、理科実験も1校のみの実施になりました）
- 諸学校
  - 総額 1216万円相当
    - ◇ 養護学校 20校 視聴覚機材等
    - ◇ 盲学校 17校 卓上型拡大読書器
    - ◇ 聾学校 19校 短焦点プロジェクター
    - ◇ 病院内学級 4学級 タブレット等
- 災害被災学校
  - 東日本大震災（岩手・宮城・福島 計133校）
    - ◇ 総額1,200万円相当の学用品やバス代援助等
  - 熊本豪雨被災校 計8校
    - ◇ 総額170万円相当の学用品等
  - 財団の予算にウェブベルマークからの助成を加えて支出した、東日本大震災分892万円、熊本豪雨分170万円に加え、ボランティアや企業、一般の方々

が集めて財団に寄贈してくれたベルマークを被災校に送ったものの合算です。

- このほか、教職員の防災力を高める取り組みをしている「311 命を守る教育研修機構」にも 50 万円を援助しました。
- 開発途上国の学校
  - 総額 425 万円
  - アジア・アフリカなどで活動する 9 団体を通じ 9 カ国に援助しました。この援助は、参加団体（学校等）が P T A 預金から寄付して下さる資金と財団予算をあわせて実施しています。参加団体からのこの寄付を友愛援助と呼んでいます。
- 日本人学校
  - 総額 43 万円相当
  - オーストラリア、大韓民国、フランス、ニュージーランドの計 4 校に支援しました。

#### 《財団運営》

- システム改修
  - P T A が財団 H P でベルマーク預金の残高を照会するシステムを構築しました。
  - 仕分け・集計簡素化のためのデジタル技術応用実験。画像認識技術導入へ向けての取り組みを継続しました。
- 2020 年度に受けた大口寄付
  - ミズノスポーツ振興財団 1,000,000 円
    - ◇ 1971 年から 50 年連続で総額 9150 万円になりました。
  - ジブラルタ生命保険株式会社 1,000,000 円
    - ◇ へき地校向け出前教室の充実への寄付です。
- 財団役職員数
  - 常勤 26 人(2021 年 3 月 31 日現在)